

卒業証書授与式予行を行いました



3月17日（金）に、卒業証書授与式予行を行いました。
卒業証書授与式は儀式的行事であり、6年生（卒業生）にとっては、大きな節目となる行事です。6年生は、自分たちの卒業証書授与式が最高のものになるように、一つ一つの動きやセリフ、歌を仕上げてきています。
そして、5年生は、6年生の門出を祝して、卒業証書授与式が心に残る温かい式になるよう、5年生としての役割を精一杯果たそうと頑張っています。練習を重ねる度に、次期最高学年としての自覚が高まってきているように感じます。『姿勢』『目線』『我慢』『自覚』を合言葉に、呼びかけや歌はもちろんのこと、温かさの中にも緊張感のある卒業証書授与式の雰囲気を作ってくれています。



呼びかけや歌詞の一言一言に、自分たちの思いを込めて会場の人たちに届けています。

『感謝』や『祝福』の思いを精一杯の拍手に込めて、卒業生に届けています。

卒業証書授与式予行の式辞では・・・

卒業生のみなさん、
ご卒業おめでとうございます。

みなさんの小学校生活を振り返った時、後半は、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた新しい生活様式で、コロナ前とは違った生活となりました・・・
不安や恐怖を感じる日々が続きました・・・
このコロナ禍を経験したことで、今まで当たり前と思っていたことが、実は当たり前ではなかったことに気づきました・・・

人は一人では生きてはいけません。支えてくれる人がいるからこそ、今、自分がここにいるのです。
目に見えるものだけにとらわれず、見えない所まで見ようとする人になってほしいと思います・・・
そして、感謝の気持ちを忘れない、そういう人になってほしいと思います。

相田みつをさんの『ただい
るだけで』を子どもたちに紹介しました。



本校の特色である狂言学習では、2か月以上の練習を経て、12月7日に、無事第22回狂言発表会を開催することができました。

山口耕道先生からは、「伝統をつないでいくには、形を繋ぐだけではいずれ廃ってしまう。伝統を繋ぐということは、その年その年の伝統を受け継いだ人たちの思いをそこに入れていかなければ続かない。」とおしえていただきました。6年生のみなさんは、狂言発表会に向けて、精一杯頑張りました。チームが一致団結すること、思いを繋いでいくことを意識しながら、令和4年度の6年生にしかできない狂言の表現を創り上げました。

毎朝の登校では、班員の安全を第一に考えながら関わってくれました。特に、4・5月の皆さんは、低学年の歩く速さに合わせながら登校し、下級生を気遣うやさしい姿が印象的でした。
また、いつもお世話になっている方々に、あいさつを通して感謝の気持ちを届けていました。その姿は、下級生の素晴らしいお手本となりました。

児童会活動においても大変活躍してくれました・・・

狂言の練習では、最初は自分のことで精一杯だったみなさんが、最後は仲間のことも気遣いながら全体を視野に入れて活動ができるようになりました・・・

この狂言学習を通じて、初めは困難に思うことでも諦めずに頑張ること、頑張った分だけ必ずいいことが自分に返ってくることを、身をもって体験できたと思います。この経験をこれからの生活に、ぜひ生かしてほしいと思います。



5年生のみなさん、卒業生に『ご卒業おめでとうございます』『今までお世話になりました』というお祝いと感謝の気持ちがよく伝わってくる卒業式の練習（予行）です。卒業式の雰囲気をつくるという大切な役割がしっかり果たせています。頑張っています・・・

卒業式まであと3日。堂々とした先輩の姿をしっかりと目に焼き付けてください。

卒業おめでとうメニュー（給食）



3月17日（金）の給食は、卒業おめでとうメニューでした。6年生は、一つの円になって、みんなの顔が見える状態で楽しく給食を食べていました。

いつも穏やかで、友だちに優しく接している6年生のみなさん、また一つ思い出が増えましたね。

